

アサリの放流

平成 22 年 4 月 21 日に三枚州に 10 トン、6 月 1 日に羽田空港周辺に 7 トンのアサリ放流を行いました。

当協会では、昭和 59 年以降、アサリの放流を行っています。今までの定着調査では放流アサリは初夏の潮干狩りシーズンを過ぎた 9 月ながらも 15~30% 残存し、産卵親貝として役立っていることが判明しています。しかし、アサリで満ちあふれる海にはなかなか到達できません。

アサリ放流の今一つの目的は、多くの方が長い期間、アサリを採ることにより海底が耕され、貝等の棲みよい海をつくることです。

現在、地元産アサリやシオフキ、バカガイ等が増えて来ており、東京湾の再生に一役買っております。

